

アートキャラバンミュージックルネッサンス 石川・金沢

ホーグストランサンバル金沢

OEK &

石川県ピアノ協会

スペシャルコンサート

2020
11/3 火祝 14:00開演

石川県立音楽堂コンサートホール



11月20日(金)～ OEKのウェブサイトにて動画配信を致します。お楽しみください。

主催：文化庁 (公社)日本芸能実演家団体協議会 (公財)石川県音楽文化振興事業団
共催：石川県ピアノ協会

オンラインによるアンケートを実施しております。右のQRコードよりアクセスし回答をお願い致します。



JAPAN
LIVE YELL
project

ライブへのエール。ライブからのエール。



文化庁令和2年度
戦略的芸術文化創造推進事業
「JAPAN LIVE YELL project」



Program

◆ピアノ 江端 玲子 *Reiko Ebana, Piano*

ラーション : ピアノ・コンチェルティノー Op. 45 No. 12
L-E. Larsson Piano Concertino Op. 45 No. 12

第1楽章 : アレグロ・モルト
Allegro molto

第2楽章 : アンダンテ・コン・モト
Andante con moto

第3楽章 : アレグロ・スケルツァンド
Allegro scherzando

◆ピアノ 加藤 恵理 *Eri Kato, Piano*

シューマン : ピアノ協奏曲 イ短調 Op. 54
R. Schumann Piano Concerto in A minor Op. 54

第1楽章 アレグロ・アフェトゥオーソ
Allegro affettuoso

第2楽章 インテルメッツォ:アンダンティノー・グラツィオーソ
Intermezzo: Andantino grazioso

第3楽章 アレグロ・ヴィヴァーチェ
Allegro vivace

————— 休憩 / Intermission —————

◆ピアノ 坂下 幸太郎 *Kotaro Sakashita, Piano*

メンデルスゾーン : ロンド・カプリチオーソ Op. 14
F. Mendelssohn Rondo Capriccioso Op. 14

◆ピアノ 樋口 一朗 *Shiro Higuchi, Piano*

ベートーヴェン : ピアノ協奏曲 第5番 変ホ長調「皇帝」Op. 73
L. v. Beethoven Piano Concerto No. 5 E-flat major Op. 73 "Emperor"

第1楽章 アレグロ
Allegro

第2楽章 アダージョ・ウン・ポコ・モッソ
Adagio un poco mosso

第3楽章 ロンド:アレグロ
Rondo: allegro



ラーション：ピアノ・コンチェルティノー Op. 45 No. 12

「田園組曲」や「偽りの神」のような温かみのある旋律の作品で、スウェーデンで根強い人気を獲得したラーシュ＝エリク・ラーション。1945年、地元で貢献していたアマチュアオーケストラの指導者として任命された彼は、音楽的に上手いきそうなモダンな弦楽パートが必要だとすぐに気がつき、このことが、このユニークなコンチェルティノーシリーズを作曲する結果となった。12の楽器のために書かれたコンチェルティノーの音楽は皆、比較的シンプルな弦楽パートとレベルの高いソロパートを含んでおり、ハイクオリティーであることを証明している。それによってプロフェッショナルなオーケストラもレパートリーに加えるようになった。本日演奏するのは、12曲目のピアノ。この曲集の全ての作品は3楽章で出来ている。ゆっくりとした中間楽章が、凝縮されたソナタ形式の二つのアレグロ楽章によって挟まれている。

シューマン：ピアノ協奏曲 イ短調 Op. 54

シューマンが恩師の娘クララと結婚した1840年の翌年、クララのために、「ピアノとオーケストラのための幻想曲」書き上げた。彼は以前からピアノ協奏曲の作曲を夢みていたが、オーケストレーションが不得手だったため手間どり、苦勞してやっとまとめ上げた最初の実りがこの曲であった。だが、その4年後に親友メンデルスゾーンのパiano協奏曲を聴いてショックを受け、そのとき自分もすばらしいピアノ協奏曲を書こうと発奮したのであった。そこで彼は以前に書いた「ピアノとオーケストラのための幻想曲」に手を加え、それを第1楽章としてまとめたのが、この「ピアノ協奏曲イ短調」である。シューマンはクララに、「私はヴィルトゥオーゾのために協奏曲を書く訳にはいかない。何か別のものを考えねばならない。」と述べたそうだが、確かにこの協奏曲は、外面的な華やかさをねらった当時流行の協奏曲とは違っており、いわば、ロマン的なピアノ協奏曲風幻想曲といえるだろう。

メンデルスゾーン：ロンド・カプリチオーソ Op. 14

ドイツロマン派の作曲家であるメンデルスゾーンは、1809年裕福な銀行の家に生まれ、幼い時から音楽に非凡な才能を示しました。ドイツ古典派音楽を受け継ぎ、38年の短い生涯の間に優美にして端正な曲を数多く作曲しました。

ロンドはロンド形式、カプリチオーソは「気まぐれに」の意。ロンド・カプリチオーソは1828年に「ホ短調のエチュード」として書かれた軽快なロンド形式の曲に、1830年ホ長調の甘美で優雅な導入部（Andante）を書き加えて今の曲となりました。メンデルスゾーンが21歳の時の作品で、パリで出会った初恋の女性デルフィン・フォン・シャウロス（ピアニスト）のために作曲されました。

ベートーヴェン：ピアノ協奏曲 第5番 変ホ長調 Op. 73 「皇帝」

現在、ピアノ協奏曲の分野で、最もよく演奏される作品といえばこの＜皇帝＞協奏曲の名があがるであろう。この＜皇帝＞という呼び名は、ベートーヴェン自身がつけたものではなく、当時ウィーンを占領していたフランス軍の兵士が、この曲を聴いて「皇帝だ！皇帝万歳！」と叫んだことからなっているが、真偽のほどはさだかではない。

しかし、この曲とフランス軍とは密接な関係がある。1809年、ヨーロッパ制覇をめざすフランス、ナポレオン軍により、ウィーンは占領され、音楽活動は全くなかったにもかかわらず、ベートーヴェンは多くのウィーン市民とともにウィーンにとどまったのである。この曲はその戦乱の最中に作曲され、ウィーン市民と運命を共にする強い民族的な意識が根づいており、それが壮大雄渾な曲想と結ばれていると見る識者も少なくない。

初演はライプツィヒで行われたが評判はよくなく、ベートーヴェンの存命中は演奏されることはなかった。

Profile

指揮 太田 弦

Gen Ohta, Conductor



1994年北海道札幌市に生まれる。幼少の頃より、チェロ、ピアノを学ぶ。東京芸術大学音楽学部指揮科を首席で卒業。学内にて安宅賞、同声会賞、若杉弘メモリアル基金賞を受賞。同大学院音楽研究科指揮専攻修士課程を卒業。15年、第17回東京国際音楽コンクール（指揮）で2位ならびに聴衆賞を受賞。指揮を尾高忠明、高関健の両氏、作曲を二橋潤一氏に師事。山田和樹、パーヴォ・ヤルヴィなどの各氏のレッスンを受講する。これまでに読売日本交響楽団、東京交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、札幌交響楽団、群馬交響楽団、名古屋フィルハーモニー交響楽団、大阪フィルハーモニー交響楽団、大阪交響楽団などを指揮、今後さらなる活躍が期待される若手指揮者筆頭。19年4月より大阪交響楽団正指揮者に就任。

ピアノ 江端 玲子

Reiko Ebana, Piano



昭和音楽大学音楽学部器楽学科ピアノ専攻卒業。東京ミュージック&メディアアーツ尚美ディプロマコースピアノ専攻修了。第26回国際芸術連盟新人オーディション合格、奨励賞受賞。第11回ベストプレイヤーズコンクール優秀賞。第4回大阪国際音楽コンクールピアノ部門入選。2001年、石川県ピアノ協会「ピアノ協奏曲の夕べ」にてオーケストラ・アンサンブル金沢と共演。12年、16年、金沢市アートホールにてピアノリサイタル～北欧のピアノ曲から～を開催これまでに浅地妙子、直江久美子、奥村晃博、故北川正、故杉谷昭子、拝田正機、山下智、松井晃子、正木文恵の各氏に師事。北欧のピアノ曲とアンサンブル曲の演奏に積極的に取り組んでいる。

ピアノ 加藤 恵理

Eri Kato, Piano



京都府出身。京都市立堀川高校音楽科を経て、京都市立芸術大学音楽学部ピアノ科卒業、ドイツ・ミュンヘン音楽大学大学院修了（ディプロマ取得）。在学中、オーストリアのペルチャッハに於いて第2回国際ヨハネス・ブラームスコンクール室内楽部門第1位、並びに聴衆特別賞受賞。これまでにピアノを長畑暁子、笠原成子、斎藤隆子、ミヒャエル・シェーファー、マインハルト・プリンツの各氏に、ドイツ歌曲解釈伴奏法をヘルムート・ドイチュ氏に師事。現在、ソロ・伴奏・室内楽の分野で演奏活動をする傍ら、後進の指導にも力を注いでいる。

ピアノ 坂下 幸太郎

Kotaro Sakashita, Piano



4歳よりピアノを始める。第5回いしかわ国際ピアノコンクールジュニア部門Jr. I第3位。大阪国際コンクールピアノ部門カテゴリーE3ファイナル第2位。ピティナコンペティション全国決勝大会A1級入選。B級金賞。C級金賞。連弾初級B銅賞。連弾初級C入選。ショパン国際コンクール in ASIAアジア大会小学1・2年生部門奨励賞。小学3・4年生部門銅賞。小学5・6年生部門銀賞。深谷直仁氏に師事。

ピアノ 樋口 一郎

Ichiro Higuchi, Piano



桐朋学園大学を首席で卒業し、同大学院2年に在学中。2018、19年度RMF奨学生。第85回日本音楽コンクール第1位。併せて、野村賞、井口賞、河合賞、E・ナカミチ賞、アルゲリッチ財団賞を受賞。第35回飯塚新人音楽コンクール第1位。第16回チェコ音楽コンクール第1位。第5回石川国際ピアノコンクール第1位及び聴衆賞。第7回仙台国際音楽コンクールにて聴衆賞ディプロマを獲得。九州交響楽団、東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、群馬交響楽団、セントラル愛知交響楽団、仙台フィルハーモニー管弦楽団等と共演。NHK-FM『リサイタル・ノヴァ』『現代の音楽』等ラジオ出演も多数。